

市長スピーチ

(2023年10月11日(水)米海軍原子力空母ジョージ・ワシントン艦上にて)

皆さんこんにちは。こうして直接、空母に乗艦できることを大変嬉しく思います。横須賀は世界で唯一、米国以外で、原子力空母が前方展開されている街です。今から遡ること50年前の1973年、米海軍の空母が、初めて横須賀に入港しました。「ミッドウェイ」に始まり、「インディペンデンス」、「キティ・ホーク」と続き、2008年には、この「ジョージ・ワシントン」、そして現在は、「ロナルド・レーガン」が配備されています。横須賀への原子力空母の前方展開は、日本のみならず、地域の平和と安定に大きく寄与しているものと、私は考えています。原子力空母が、横須賀市民の理解を得ながら、引き続き安全に、そして安定的に運用されることは、極めて重要であると考えています。

来年後半を目途に、「ジョージ・ワシントン」は、再び横須賀に配備されると、お伺いしています。大規模修繕工事(RCOH)が行われた、この「ジョージ・ワシントン」が、これまでと同様に、米国の厳しい基準による運用が厳格になされ、その安全性について、引き続き万全の対策がなされることを希望します。

私は、横須賀にいる米軍人も市民であると、思っています。皆さんの中には、横須賀に住んだことがある方も、いらっしゃると思います。また、すでに横須賀に移動された、ご家族の方々もおられると、お伺いしています。私は、横須賀を「第2のふるさと」として

愛して欲しいと、心より願っています。地元ホストとして、皆さんを温かくお迎えいたします。私も横須賀の首長として、米海軍とのパートナーシップの更なる強化に向け、誠心誠意、責務を全うする所存です。未来に向けて、我々の友好の絆を、さらに深めて参りましょう。みなさん、今度は横須賀でお会いしましょう。ありがとうございました。

